



夏に多い子どもの感染症



夏に流行する感染症には、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）などがあります。特に5歳までの子どもがかかることの多い感染力の強い感染症です。

➡ 感染経路は

患者の咳やくしゃみなどのしぶき（飛沫）を吸い込むことによる**飛沫感染**、鼻水、水疱、便、目やにや涙の中に含まれるウイルスが、直接または、ドアノブや手すり、ティッシュペーパー、タオル、洗面器などを介して口や鼻の中に運ばれることによる**接触感染**、**糞口感染**などがあります。

症状がなくなったあとも約2～4週間以上にわたってウイルスが排出されるといわれています。咽頭結膜熱（プール熱）・流行性角結膜炎（はやり目）は、プールでも感染しますが、近年は塩素濃度の徹底管理等によりプールの水での感染は稀と考えられています。

➡ 予防するには

👉流水と石鹸による**こまめな手洗い**、うがいを習慣づけましょう。**手洗いは多くの感染症に共通する重要な予防方法です。**

👉普段からトイレの後、おむつ交換の後、鼻をとった後に手を洗いましょう。また、鼻をとったティッシュペーパーは使い回さずその都度捨てましょう。

👉子どもが理解できる範囲で**咳エチケット***を心掛けましょう
*咳があるときはマスクをつける。人に向けて咳やくしゃみをしてはならない。
咳やくしゃみの時はティッシュなどで口や鼻をおさえる。など

👉**タオルの共用を避け**ましょう。プール前後はシャワーを浴び、目をしっかり洗い、うがいをしましょう。

5歳以上のお子さんや
大人の人も
注意してね



一覧表

	ヘルパンギーナ	手足口病	咽頭結膜熱 (プール熱)	流行性角結膜炎 (はやり目)
主な症状	38～40℃の発熱と同時にのどが痛む。食欲不振、全身倦怠感、頭痛、嘔吐、四肢痛。口の中に1～5mmほどの小さな水疱	38℃以下の発熱、口の中、手のひら、指、足の裏などに2～3mmの水疱性発疹	38℃～39℃の発熱、のどの炎症・痛み、目の充血・痛み、目やになど、頭痛、腹痛、下痢を伴う	結膜の充血、まぶたの浮腫、目やに、涙、眼痛、耳の前のリンパ節の腫れや痛み。高い熱はなく、のどの赤みも強くない。
原因ウイルス	エンテロウイルス（コクサッキーウイルスやエコーウイルスなど）	エンテロウイルス（コクサッキーウイルスA6, A16, エンテロウイルス71など）	アデノウイルス3型、7型など	アデノウイルス8型など
治療	ほとんどの場合、特別な治療は必要がなく対処療法が中心となります。まれに髄膜炎や脳炎、心筋炎を合併することがあります。		特別な治療法はありませんので、対処療法が中心になります。	対症療法として、抗炎症剤の点眼を行います。抗菌剤の点眼を行うこともあります。
その他	症状が典型的ではない場合もあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状がある、呼びかけに対する反応が鈍い、意味不明の言動がみられるなどの症状が現れた場合には、すぐに医療機関を受診しましょう。			